

2017年7月購入図書

No.	図書名	内容	著者名	出版社
1	ライフ シフト 100年時代のの人生戦略	誰もが100年生きうる時代をどう生き抜くか。働き方、学び方、結婚、子育て、人生のすべてが変わる。目前に迫る長寿社会を楽しむバイブル。 世界で活躍するビジネス思想家が示す、新しい人生のビジョン。 みんなが足並みをそろえて教育、勤労、引退という3つのステージを生きた時代は終わった。	リンダ・グラットン	東洋経済新報社
2	我がパラダイス	突然終わりを告げる、平穏な日々。「貧者の逆転劇」の結末は一東京・広尾の高級介護付きマンション「セブンスター・タウン」の受付係・細川邦子(48歳)、看護師の田代朝子(54歳)、ダイニングで働く丹羽さつき(52歳)…それぞれの家庭内で深刻な介護問題を抱える3人は、困窮していく我が身と、裕福な施設の入居者たちとの想像を絶する“格差”を前に、一世一代の勝負に出る！	林真理子	毎日新聞出版
3	最愛の子ども	デビュー以来、「女性」や「男性」らしさといった束縛からより自由に、自分だけの性や欲望を追い求める者たちを続ける作者。大人は少女を、清らかで無邪気、逆に性的に奔放など紋切り型で見がち。この小説では、大人に愛されない子たち、“パパ”日夏、“ママ”真汐、“王子”空穂、同級の女子高生三人が演じる疑似家族を描く。無意識に子供の成長を邪魔する母親の存在など、同性だけに距離が取りづらい、などの現代的な問題も織り交ぜられている。	松浦理英子	文芸春秋
4	男損の時代	世界的にも突出して「幸福度」が低いとされる、40代半ば～60代半ばの日本の男性……それが「熟メン」。 そんな閉塞感を抱える「熟メン」たちの実態や、男女の「幸せ格差」の要因を、テレビでもおなじみの人気マーケティングが、徹底取材！ 男性はこんなに大変！でも、そろそろラクに生きてみませんか？限られた時間や小遣いのなかでも、趣味や特技、見た目、副業・起業、そして家庭生活などに工夫を凝らし、人生を充実させようとしている男性たちを多数発見。	牛窪恵	潮出版
5	パラレルキャリア	P・F・ドロッカーが『明日を支配するもの』で予言したパラレルキャリアが、いま、日本で急激な勢いで広がっています。2枚目の名刺を持ち、本業と社会活動の両方から学びを得て自己成長できるパラレルキャリア。社会活動によって、本業もさらに輝くようになる。ふだん出会えないさまざまな人々とチームを組んで主体的に課題解決したり、既存の組織ではできない経験を積むことで、イノベーション思考やリーダーシップが学べる。	石山恒貴	ダイヤモンド社
6	一汁一菜でよいという提案	「食育では、一緒に食べることの大切さ、家族揃って食卓を囲むことの大切さが説かれます。けれど、商売をやっている家庭や、親が働いている家庭では、一緒に食卓を囲めないのは当然で、親が用意した汁を自分たちで温めて、子どもだけで食べる。そんな家庭はたくさんあると思います。それでも、大切なものはもうすでにもらっています。それが手作りの料理です、愛情そのものです。だから、別に一緒に食べることばかりが大切じゃないのです。」(本文より)	土井義晴	グラフィック社
7	ママは悪くない！ 子育ては”科学の知恵でラクになる	NHKスペシャル「ママたちが非常事態！？」の放送内容をベースとした科学の視点からの育児本。 放映されるやいなや、大反響を巻き起こしたNHKスペシャル「ママたちが非常事態！？」。「孤独な子育て」「産後のイライラ」「夫への不満」「夜泣きや寝不足でフラフラ」…産後のママたちの現実を深く掘り下げ、「最新科学」の視点から、解決のヒントを探った番組は母親たちの圧倒的共感を呼びました。	ふじいまさこ	主婦と生活者

8	ワンオペ育児 わかってほしい休めない日常	子育て中の女性はヘトヘトです。早朝から夜遅くまで家事に育児に、さらに仕事にと一日中働きつめ。自分の髪の毛はパサパサ、爪はネイルケアどころかささくれも放置。職場では早退や急な欠勤を繰り返しペコペコ頭を下げ続け、家に帰れば休む間も誰かのためのタダの仕事、会社では男性よりも低賃金の二重労働。毎日ワンオペで十数時間働くブラック労働。子育て真っ最中の男女をめぐる現状を取材し、子育て中の著者が当事者の立場から読み解き、乗り切る方法を提案します。	藤田結子	毎日新聞出版社
9	女の子が生きていくときに 覚えていてほしいこと	王子様を待たないで、お寿司も指輪も自分で買おう。女たちは、次の出代、また次の世代に、希望を託してきた。せめて子どもには、今の自分より、少しでも幸せな人生をあげたい。今の場所が最低だと思うなら、そこを抜け出す戦略を立てる。それだけはやめないでほしい。人生に向き合い、幸せを自分で取りに行くための、厳しくもハートフルな生き方指南。	西原理恵子	KADOKAWA
10	産む、産まない、産めない	いつの時代も女性の永遠のテーマ。産んだら幸せ、産まなかった(産めなかったら)不幸というこて絶対にはないはずで、もっと自由にいろいろな夫婦や個人の生き方が合ってよいはず。だってこんなに生きていくのが大変なんだから。	甘糟りり子	講談社文庫
11	男女共同参画社会データ集	女性の活躍と子育て、社会環境の改善をどうするか？ 企画提案のための統計を幅広く収録。		三冬社
12	定年後	定年後の自由な時間8万時間。その時間をいきいきとしている人は半数に遠く満たない。口では、定年後も大変、と言っているも、顔に充実感がない。特に男性はクレーマーになったり生活が乱れたり。組織にどっぷりつかっていた人ほど落差が大きく、対応できない人が多い。社会とのつながりや居場所づくりこそ、充実した毎日の決め手になると強調する。定年後は、40代後半から50歳からはじまっています。	楠木新	中央公論新社